

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL：03-5253-8111（代）

この冊子の作成にあたっては、「UD 書体」「カラー UD」を使用しています。

平成28年1月



目 次

■ プログラム	2
■ 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について	3
■ 講 評	4
秋山 哲男 委員（中央大学 教授）	
小山 聡子 委員（日本女子大学 教授）	
高橋 儀平 委員（東洋大学 教授）	
三星 昭宏 委員（関西福祉科学大学 客員教授）	
■ 受賞者事例報告	
・ 誰もが楽しめる映画祭を通じたユニバーサルデザインのまちづくり	6
（島 信一郎・北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会）	
・ JR西日本とともに取り組む手話を通じた心のバリアフリーの推進	8
（鳥取県）	
・ 障害当事者団体・行政・民間事業者の協働事業による	10
公共施設・路線バス等への磁気ループの設置	
（香川県難聴児（者）親の会）	

プログラム

〔平成28年1月22日(金)〕

● 表彰状授与

14:00～14:30

● 選考委員からの講評

14:45～15:15

中央大学 教授

秋山 哲男 氏

東洋大学 教授

高橋 儀平 氏

関西福祉科学大学 客員教授

三星 昭宏 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

15:15～16:30

島 信一郎・北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会

【誰もが楽しめる映画祭を通じたユニバーサルデザインのまちづくり】

障害がある方や健常者、高齢者や子供などを問わず、参加した誰もが同じ環境で楽しむことができる映画祭をはじめとして様々なユニバーサルデザインへの取組みを継続して行っている。

鳥取県

【JR西日本とともに取り組む手話を通じた心のバリアフリーの推進】

手話言語条例を全国に先駆けて制定し、駅等へのタブレット型端末の設置、テレビ電話機能を活用した遠隔手話通話サービスや音声文字変換システムの導入など、公共交通機関における聴覚障害者とのコミュニケーションツールの充実に取り組むとともに、JR西日本米子支社における手話研修の実施など、公共交通事業者の自主的な取組みを強く喚起した。

香川県難聴児(者)親の会

【障害当事者団体・行政・民間事業者の協働事業による公共施設・路線バス等への磁気ループの設置】

行政、民間事業者と協働し、高松市内の公共施設や路線バスへの磁気ループ設置を働きかける取組みのほか、講演などで全国へ磁気ループ拡大の発信を行うなど、聴覚障害者の情報バリアフリー化に対する多大な貢献及び全国の模範となる活動を行っている。

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第9回となる今回も多く優れた取組みが推薦され、なかでも特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男 中央大学 教授

小山 聡子 日本女子大学 教授

高橋 儀平 東洋大学 教授

三星 昭宏 関西福祉科学大学 客員教授

第9回受賞者の決定

19候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、3件の受賞者を決定しました。

第9回となる今年度の表彰においては、全国各地から19件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取り組みが展開されつつあることがうかがえます。

全19件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取り組みをご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、体育館やプールなどの公共施設のバリアフリー化や、交通機関では鉄道・バスに加えて空港や港のバリアフリー化に関する取り組みが見られます。また、手話や磁気ループなど多様なコミュニケーション方法を活用した情報のバリアフリーの取り組み、バリアフリー情報の提供などソフト面の取り組みも見られます。

このように、バリアフリー化の取り組みが幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な



小山 聡子 委員
(日本女子大学 教授)

取り組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「島信一郎・北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会」は、「誰もが共に生きる意識を持った優しい社会環境の実現」、「地域のユニバーサルデザイン化の普及」、「子どもたちの世代からインクルージョンの意識を持つ人づくり」を目指し、障害がある方や健常者、高齢者や子供などを問わず、参加した誰もが同じ環境で楽しむことができる映画祭をはじめとして様々なユニバーサルデザインへの取り組みを継続して行っておられます。このように、インクルージョンの理念の下に地域や人に優しいまちづくりを継続して進めておられる点を高く評価し、表彰することとしました。

「鳥取県」は、手話言語条例を全国に先駆けて制定し、JR西日本米子支社などとともに鳥取駅等9カ所にタブレット型端末を設置し、テレビ電話機能を活用した遠隔手話通話サービス

や音声文字変換システムを導入するなど、公共交通機関における聴覚障害者とのコミュニケーションツールの充実に取り組んでおられます。また、JR西日本米子支社における手話研修の実施など、公共交通事業者の自主的な取り組みを強く喚起されました。このように、手話施策を中心とした聴覚障害者への理解の推進を通じて、心のバリアフリーが他地域や民間事業者に浸透し、大きな波及をもたらしている点を高く評価し、表彰することとしました。

「香川県難聴児（者）親の会」は、予算の少ない中、行政、民間事業者と協働で、高松市内の公共施設や、四国で初めてバスに磁気ループを設置するなど、先進的な取り組みを行われました。また講演などで全国へ磁気ループ拡大の発信を行うなど、聴覚障害者の情報バリアフリー化に対する多大な貢献及び全国の模範となる活動を行っておられることを高く評価し、表彰することとしました。

今回ご推薦いただいたものには、それぞれの



三星 昭宏 委員
(関西福祉科学大学 客員教授)

特徴ある取り組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取り組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取り組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取り組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>



秋山 哲男 委員
(中央大学 教授)



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)



選考風景

島 信一郎・北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会

誰もが楽しめる映画祭を通じたユニバーサル デザインのまちづくり

講 評

受賞者は、「誰もが共に生きる意識を持った優しい社会環境の実現」、「地域のユニバーサルデザイン化の普及」、「子どもたちの世代からインクルージョンの意識を持つ人づくり」を目指し、障害がある方や健常者、高齢者や子供などを問わず、参加した誰もが同じ環境で楽しむことができる映画祭をはじめとして様々なユニバーサルデザインへの取組みを継続して行っている。このように、インクルージョンの理念の下に地域や人に優しいまちづくりを継続して進めた点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

■ 取組みの概要

島信一郎氏を代表とする北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会では、映画を鑑賞する全ての人が総合芸術として楽しむための取組みとして、複数ジャンルにわたる上映映画全てに「日本語字幕」、「音声ガイド」に加え、他に例のない「ミュージックサイン^(※)」を、司会や関連企画には「要約筆記」「手話通訳」を用意するとともに、会場には「補聴援助システム（磁気ループ席）」や「選べる車椅子席」の設置、「託児所」を完備するなど、映画鑑賞をすること自体にバリアのある方にも応じた、様々な映画の楽しみ方を用意している。また、映画祭を通してシンポジウムやワークショップ、モニターツアーなど、自治体や団体、地域などと協同し、多様な関連企画にも取り組んでいる。



映画祭 看板

(※) ミュージックサイン：音楽や音（背景音など）を手話や動作、絵などを使って視覚化表現するもの。上映中の映画の横で映像にかからず、目から映像がずれない位置で行っている。

● 北海道ユニバーサル上映映画祭ワークショップ

開催地である北海道北斗市内などの小・中・高校生が年代に応じたユニバーサルデザインをテーマに時間をかけて取り組み、映画祭の案内ガイドやサポートなどの実体験、ワークショップとして成果発表などを行っている。

高校生では上映映画の日本語字幕や音声ガイドの作成に取り組むとともに、当日の音声ガイドナレーションや字幕オペレーターを担当するなど企画・制作段階から携わっている。また、今年度からは社会教育、地域のユニバーサル化プロジェクトの一環として教育大学の授業とするなど、将来を見据えた人づくりを継続している。



中学生ワークショップ舞台発表（北斗市かなで〜る会場）



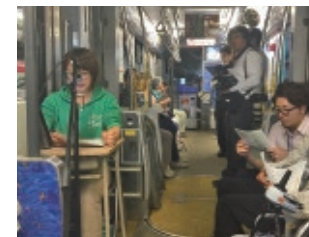
ミュージックサイン（北斗市かなで〜る会場）

● 映画祭PRを兼ねた上映会

函館市企業局交通部の低床車両「らっくる号」の走行中車内で、液晶化された料金表示画面を利用した上映会「市電シネマ」は、ユニバーサル上映とユニバーサルデザイン化された低床車両を広く地域に広報する役割を担っている。



低床車両「らっくる号（北海道新幹線カラー）」



「らっくる号」での上映会（音声ガイド入り）

● ユニバーサルツーリズムへの取組み

第10回映画祭では七飯上映会に併せて、車いす使用者、視覚障害者等を対象に、「大沼観光モニタリング（UD検証）体験コースツアー」を、北斗市開催では「視覚障がい者モニターツアー」を企画し、障害者の旅行・外出機会の増進と公共交通、観光地・商業施設等の受入れ側の意識改革に取り組んでいる。



大沼公園でのUDツアーカヌー体験



誰もが共に楽しめます！

◎ 今後期待される取組み

映画祭は今年で10年目を迎え、当事者への広がりのみならず子供世代から理解を深める活動、企画の充実や新たな取組みなど、まちづくりとして発展させている地域のユニバーサルデザイン化の取組みを、今後も継続していくことが期待される。

喜びの声



島 信一郎 氏

〈コメント〉

この度は大変名誉な賞をいただき、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

ひとりひとりの違いを当たり前と認め合い、つなげ合うことで広がる優しさの波紋を大切に、インクルーシブ社会の実現を目標に活動してきました。

とても小さな力ではありますが、今回の受賞を励みに、これからも「子どもたち・若者たちの心を育む企画」を基礎とした街づくりの取組みに、一層力を注いでいく所存です。

【受賞者】 島 信一郎

【連絡先】 北海道函館市湯川町2丁目29-28
TEL 0138-57-3157

【活動等の経緯】

平成15年4月 自ら全盲の障がいがある島氏が「誰もが共に生きる社会を目指し」インクルーシブ友の会の活動を始める

平成16年 UD上映会を実行委員長として開催、ユニバーサル上映映画祭実行委員会設立の基礎を築く

平成18年8月 第1回映画祭開催に先駆けて、インクルージョン講演会を開催し700人が参加

平成20年5月 (一社) 函館視覚障害者福祉協議会 理事長に就任、ほか多数の役職を兼務

平成24年6月 パリアフリー化推進の功績により、北海道運輸局長表彰を受賞

平成27年 第10回映画祭に併せたユニバーサル・モニターツアーを複数企画

【Web - URL】 <http://inclusive-t.com/>



北海道ユニバーサル
上映映画祭実行委員会
代表 島 信一郎 氏

〈コメント〉

この度、国土交通省大臣表彰という名誉高き賞を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げますと共に、開催地である北斗市・七飯町・函館市の皆様、スタッフ・ボランティアの皆様、応援して頂いている皆様に対し、改めて深く感謝申し上げます。

社会の総合芸術「映画」を基点としたユニバーサルの地域創成の取組みは、多くの皆様に暖かく育てていただきました。今後も感謝の気持ちを大切に頑張ってまいります。

【受賞者】 北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会

【連絡先】 北海道函館市松陰町2番6号 UD企画函館
TEL 0138-55-1855

【活動等の経緯】

平成18年4月 北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会設立

平成18年9月 北海道北斗市において第1回映画祭を開催し現在に至る

平成19年8月 函館市電を利用したユニバーサル上映試写会を開始し現在に至る

平成19年11月 函館上映会を開始し現在に至る

平成21年6月 七飯上映会を開始し現在に至る

平成27年 第10回映画祭を七飯町・北斗市・函館市において開催

【Web - URL】 <http://inclusive-t.com/local/hokkaido-universal-movie>

JR西日本とともに取り組む手話を通じた心のバリアフリーの推進

講 評

受賞者は、手話言語条例を全国に先駆けて制定し、JR 西日本米子支社などとともに鳥取駅等 9 カ所にタブレット型端末を設置し、テレビ電話機能を活用した遠隔手話通話サービスや音声文字変換システムを導入するなど、公共交通機関における聴覚障害者とのコミュニケーションツールの充実に取り組んでいる。また、JR 西日本米子支社における手話研修の実施など、公共交通事業者の自主的な取組みを強く喚起した。このように、手話施策を中心とした聴覚障害者への理解の推進を通じて、心のバリアフリーが他地域や民間事業者に浸透し、大きな波及をもたらしている点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

■ 取組みの概要

鳥取県では、全国で初めて「鳥取県手話言語条例」を制定し、手話の普及について、行政、県民、事業者等の役割を定め、幅広い者との連携を推進している。

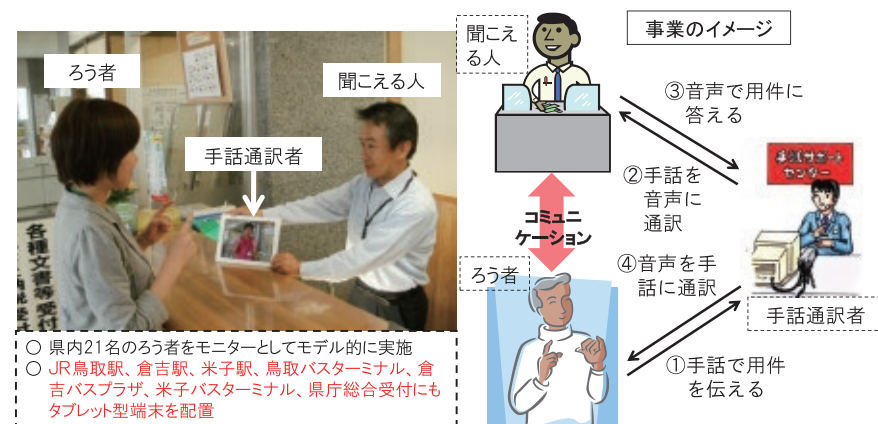
公共交通事業者との連携では、駅、バスターミナルにおいて遠隔手話通話サービスや音声文字変換システムを導入するなどの取組みを進めており、これを契機に、JR 西日本米子支社職員により手話研修が実施され、JR 鳥取駅においては毎朝の点呼時に手話を 10 覚えるという取組みが実施されるなどの自主的な取組みも始まった。

また、「あいサポート運動」の開始、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の開催、障害者の芸術・文化活動の振興など、福祉、教育、文化、スポーツ分野における市民参加型の多面的な活動を行っている。

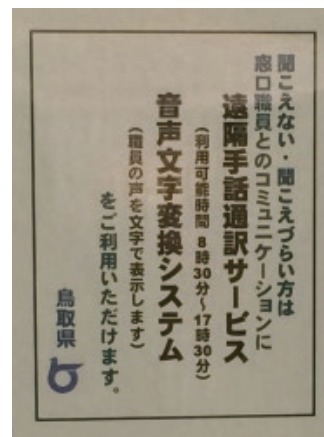
● 遠隔手話通話サービス、音声文字変換システムの公共交通機関等への導入

短時間の用事や急に必要に迫られた場面など、手話通話者の派遣を頼みにくい場面でも手話を利用できるよう、タブレット型端末のテレビ電話機能を通じてろう者と窓口職員がコミュニケーションをとるためのシステムを導入している。

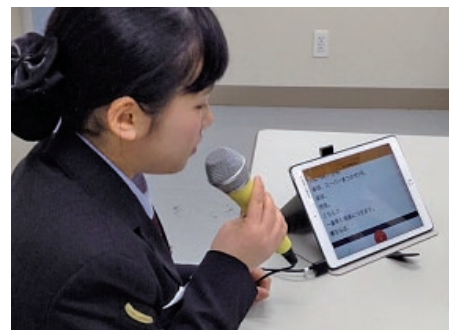
また、声を文字に変換してタブレット型端末の画面に表示する音声文字変換システムを全国で初めて自治体窓口を導入し、手話を使わない難聴者や中途失聴者も円滑にコミュニケーションできるようにしている。(現在、JR 鳥取駅、倉吉駅、米子駅、鳥取バスターミナル、倉吉バスプラザ、米子バスターミナル、県立図書館、県庁総合受付、県障がい福祉課の 9 カ所に端末を配置)



遠隔手話通話サービスのイメージ



JR 鳥取駅等に表示している案内



音声文字変換システムを活用した文字でのやりとり

●「あいサポート運動」の開始

鳥取県では、県民が多様な障害の特性の理解に努め、障害がある方が困っているときに「ちょっとした手助け」を行うことにより共生社会を目指す「あいサポート運動」を 2009 年に開始した。

鳥根県、広島県、長野県、奈良県、山口県、埼玉県（2 市 5 町）、韓国江原道などとあいサポート運動連携協定を締結しており、同運動は全国的に広がっている。(あいサポーター数は 2015 年 11 月末現在で 272,014 人)



● 全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催

鳥取県では、全国初の手話を使ったダンス、歌、演劇、落語などの高校生によるパフォーマンスのコンテストの大会を 2014 年から開催している。

また、障害者の芸術・文化活動の振興にも取り組んでおり、あいサポート・アートとっとり祭りの開催など県内での行事の開催のほか、全国的な取組みとして、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの中で障害者の芸術・文化振興について、他の都道府県とも連携して取り組むこととしている。



全国高校生手話パフォーマンス甲子園

◎ 今後期待される取組み

今後、聴覚障害者施策に更に丁寧に取り組むとともに、他の障害者の一層の理解促進に取り組んで頂きたい。また、基本構想の策定などを通じて、ハード面のバリアフリー化にも注力されることが期待される。

喜びの声



鳥取県

鳥取県知事 平井 伸治 氏

【コメント】

「障がいを知り、ともに生きる」をテーマに「あいサポート運動」を提唱し、日本初の手話言語条例を制定した鳥取県では、聴覚障がい者の交通権を保持するため、「遠隔手話通話サービス」や事業所・県民の手話普及に取り組ましました。交通事業者、手話パフォーマンス甲子園出場高校生をはじめ、協力してくださった皆様に感謝します。今後も地域を挙げてコミュニケーションによるバリアフリー化に挑戦していきます。

【受賞者】

鳥取県

【連絡先】

鳥取県鳥取市東町一丁目 220 番地
(鳥取県地域振興部交通政策課)
TEL 0857-26-7641
(鳥取県福祉保健部障がい福祉課)
TEL 0857-26-7867

【活動等の経緯】

平成 21 年 11 月 「あいサポート運動」開始
平成 25 年 10 月 「鳥取県手話言語条例」施行
平成 25 年 12 月 「遠隔手話通話サービス」を開始
平成 26 年 6 月 鉄道事業者、バス事業者等の協力を得ながら公共交通結節点において「遠隔手話通話サービス」を開始
平成 26 年 11 月 第 1 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催
平成 26 年 11 月 中国運輸局交通バリアフリー等関係表彰受賞
平成 27 年 4 月 電話リレーサービス(代理電話サービス)を開始
平成 27 年 9 月 鉄道事業者、バス事業者等の協力を得ながら「音声文字変換システム」を導入
平成 27 年 9 月 第 2 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催

【Web - URL】

<http://www.pref.tottori.lg.jp/239848.htm>

講 評

受賞者は、予算の少ない中、行政、民間事業者と協働で、高松市内の公共施設や、四国で初めてバスに磁気ループを設置するなど、先進的な取り組みを行った。また講演などで全国へ磁気ループ拡大の発信を行うなど、聴覚障害者の情報バリアフリー化に対する多大な貢献及び全国の模範となる活動を行っていることを高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取り組み

■ 取り組みの概要

香川県難聴児（者）親の会は、高松市及びバス事業者と協働し、市内を走るバスや、高松市役所をはじめとした公共施設に磁気ループ^(※)を設置したほか、磁気ループ設置施設の案内マップを作成し配布を行っている。また、各地の講演において取組事例の紹介や磁気ループの設置されたバスへの乗車体験を行っている。さらに、難聴の子供達やその保護者の方々の情報交換や交流の場の提供、軽度から中程度の聴覚障害を持つ子供達への補聴器の購入助成について行政への要望といった活動も行っている。

(※) 磁気ループ：音声信号を電気信号に変え、ループアンテナ誘導磁界を発生させる磁気誘導無線システムのこと。補聴器などを付けた難聴者が騒音の大きな車内でも音声案内や運転手の声が聞き取りやすくなる。最近の劇場や会議室等にも設置されはじめている。

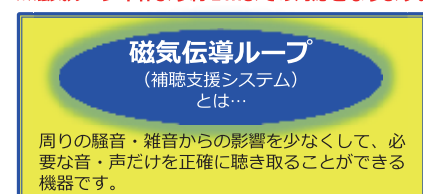
● 路線バスへの磁気ループの設置

高松市の協働企画提案事業に採用され、高松市、民間事業者と協力して、市内を走るバス6台に持ち運びが可能な磁気ループを設置している。磁気ループが設置されているバスには、聴覚障害者の方が当該バスを利用しやすいように「耳マーク」「磁気ループ設置マーク」を車両の入り口に貼っている。なお、1つの磁気ループで3名ほどのカバーが可能となっている。

補聴器・人工内耳をお使いの方へ 磁気伝導ループ（補聴支援システム）

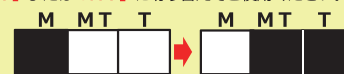
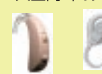
このバス（一部座席のみ）には補聴器・人工内耳を装着されている方に音声案内がはっきり聞こえる設備が設置されています。

※磁気ループ本体より約1mまでの対応となります。



補聴器・人工内耳をお使いの方へ

お使いの補聴器・人工内耳のスイッチを「T」または「MT」に切り替えてご使用ください。



※磁気伝導ループに対応していない補聴器等もございます。

※バス降車の際は必ず「T」または「MT」から「M」にお戻しください。

磁気ループの案内



バスに設置されている磁気ループ



バスの窓に貼られている磁気ループ設置マーク（左）と耳マーク（右）

● 磁気ループ設置マップの作成・配布

高松市と連携して、磁気ループが設置されている箇所を示した高松市の地図、バスの路線図、時刻表を作成している。地図には市役所をはじめ、市内の9カ所の施設が記載されており、各施設において無料配布を行っている。またバスの路線図、時刻表を掲載することで、磁気ループが設置されているバスの利用促進、磁気ループに対する理解の拡大を図っている。



高松市役所に設置されている磁気ループ



磁気ループ設置場所施設のマップ

◎ 今後期待される取組み

今後は、より多くのバス路線や公共施設にとどまらない大規模民間施設、観光施設等への磁気ループの設置拡大、全国の聴覚障害者の団体との協力による全国への同様の取組みの拡大が期待される。

喜びの声



香川県難聴児（者）親の会
会長 鎌田 浩二 氏

《コメント》

この度は名誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。また当事業実施に際し採択頂いた大西秀人高松市長はじめ、高松市役所関係部署、地元ことでんバス株式会社様のご支援ご協力のおかげと心より感謝申し上げます。

【受賞者】

香川県難聴児（者）親の会

【連絡先】

香川県高松市川島東町 874
TEL 087-880-7700

【活動等の経緯】

- 平成 21 年 5 月 設立
- 平成 24 年 3 月 全国難聴児を持つ親の会代表者研修会総会 香川大会開催
- 平成 24 年 6 月 手帳を持たない難聴児への補聴器購入公的要望書提出→平成 25 年度より実施
- 平成 26 年 4 月 高松市協働企画提案事業「難聴者（児）バリアフリー情報提供事業」採択・実施
- 平成 27 年 7 月 人工内耳買い替え購入公的助成要望提出

【Web - URL】

Facebook アドレス：
<https://www.facebook.com/groups/470830149600134/>

MEMO

Handwriting practice lines consisting of 25 horizontal dotted lines.